

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
桜花賞	2019/3/27	SI	浦和	1600m	ハイペース	良	枠順、展開

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	ダバイダバイ	牝3	54	山本紀	リーチザクラウン	サンデー系	ワカオライデン	ナスルーラ系	B	C	B	B	B	A	◎	
2	2	トーセングーネット	牝3	54	左海	アグネスデジタル	ミスプロ系	クロフネ	ノーザン系	A	B	A	B	A	B	○	
3	3	ナラ	牝3	54	筒井	シニスターミニスター	ナスルーラ系	フレンチデビュティ	ノーザン系	D	B	D	D	D	D		
4	4	ホウショウレイル	牝3	54	御神本	ヴィクトワールピサ	サンデー系	Unbridled's Song	ミスプロ系	A	A	B	C	B	B	▲	
5	5	ゼットパッション	牝3	54	山崎	グランプリボス	ナスルーラ系	キングカメハメハ	ミスプロ系	B	B	B	B	B	B	△2	
6	6	ケンガイア	牝3	54	笹川	トランセンド	アイスカベイト系	ゼンノロブロイ	サンデー系	B	B	D	C	C	C		
	7	マルバ	牝3	54	町田	フィガロ	ノーザン系	Cozzene	ナスルーラ系	B	C	C	B	C	B	×3	
7	8	ポッドギル	牝3	54	矢野	フリオーソ	ロベルト系	ディアプロ	ロベルト系	B	A	B	C	B	B	×1	
	9	ラブミーピンク	牝3	54	西	タイキシャトル	ヘイロー系	ダンスインザダーク	サンデー系	B	C	B	B	B	B	△1	
8	10	アークヴィグラス	牝3	54	瀧川	サウスヴィグラス	ミスプロ系	フジキセキ	サンデー系	A	B	B	C	B	B	△3	
	11	マーチャンスルー	牝3	54	森	ワイルドラッシュ	アイスカベイト系	Seattle Slew	ナスルーラ系	B	A	B	B	B	B	×2	

隊列図	見解	ラップタイム
ポッド トーセ ケンガ ダバイ ゼット マルバ ナラ ハイペース	<p>混沌としている今年の南関東の3歳牝馬路線。昨秋時点ではホウショウレイルが来年の主役になると見られていたが、ローレル賞でまさかの敗戦を喫し、いまだに重賞での好走歴なし。そのホウショウレイルに替わって桜花賞の大本命になるかと思われたシントーアサヒも前哨戦のユングフラウ賞で4着に敗退してしまった。振り返れば、今年の南関東の現3歳牝馬の重賞路線は、ローレル賞→東京2歳優駿牝馬→ユングフラウ賞と3連複はすべて万馬券決着になっている。今年の桜花賞には昨年の2歳王者アークヴィグラスが出走。上位人気の一角を担うのは間違いないが、浦和1600mで一般的に不利と言われている8枠10番。鞍上の瀧川騎手もどうもリズムが悪い。今年の桜花賞もユングフラウ賞に続いて波乱の決着になっても不思議ではない。それでは予想にいきましょう。ここは伏兵の一撃に期待する。</p> <p>本命はダバイダバイの差し切りに期待したい。2歳時は走るたびに馬体重が減り続けていたが（デビュー戦が427キロに対し、ローレル賞では403キロ）、それでもコンスタントに走ってきたように非常に精神的にタフな馬。デビュー以来、馬券外に敗れたのは東京2歳優駿牝馬だが、差し遅れたような形になり、決して力負けではなかった。（以下省略）</p>	<p>ラップタイム</p> <p>回顧</p> <p>次走狙い馬</p>

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	ダバイダバイ	◎	2走前のローレル賞では東京2歳優駿牝馬を制したアークヴィグラスから0.1秒差の2着に好走。このメンバーに入っても能力的に見劣ることはない。1枠1番は大きい。		
2	2	トーセングーネット	○	前走ユングフラウ賞は勝ち馬ポッドギルより斤量が2キロ重く、適性外の距離でもあったので、決して力負けではない。2走前に浦和1600mで行われたニューイヤークップではヒカリオーソを下して勝利。この条件で牝馬限定戦、2枠2番の好枠を引けたのであれば、崩れる要素が見当たらない。		
3	3	ナラ		笠松からの参戦。決して弱い馬ではないが、地元の重賞でも掲示板入りが精いっぱい。レベルの高い南関東のS1ではさすがに能力不足が露呈するだろう。		
4	4	ホウショウレイル	▲	重賞ではローレル賞5着、ユングフラウ賞6着と期待を裏切っているが、2戦とも自分の形を作れなかったのは事実。ウィクトワールピサ産駒らしくトビが大きいので、とにかくスムーズに運べるかが重要になる。今回は枠順の並びからハナに立てる可能性も20%くらいありそう。		
5	5	ゼットパッション	△2	前走ユングフラウ賞で上位にやや離れた5着も、距離がやや不足していた。今回は2戦2勝のマイル戦。5枠5番なら流れに乗れそうで、前走ユングフラウ賞からの上積みがあるのではないか。2走前の桃花賞は強かった。		
6	6	ケンガイア		1200mで実績を残してきた馬。2走前の東京2歳優駿牝馬では13着に敗退。浦和なら多少誤魔化しが利くとはいえ、このメンバーで勝ち負けまでは想像が出来ない。		
	7	マルパン	×3	今年の2戦が案外も、昨年の東京2歳優駿牝馬は伸びづらい外から追い上げての3着。当時の1着アークヴィグラス、2着ラブミーピンクを押さえるなら本馬にも印を回しておきたい。		
7	8	ポッドギル	×1	前走ユングフラウ賞が上手く行き過ぎたので押さえ。それでも父フリオーソは使われつつ強くなる産駒が多く、本馬も本格化した可能性はありそう。スタートのダッシュ力はピカイチで、7枠8番でも行き切れるのではないか。		
	9	ラブミーピンク	△1	今年に入ってから結果こそ出ていないものの、終いはしっかりと脚を使っており、いずれのレースも決して悪い負け方ではない。2走前のユングフラウ賞は4コーナー時点で絶望的な位置にいたのが敗因。上りはダントツの1位をマーク。距離が伸びて展開が向けば、上位に食い込んできても不思議ではない。		
8	10	アークヴィグラス	△3	能力上位も、8枠10番ゲートとややリズムの悪い瀧川騎手が不安。過去5年、桜花賞の3着以内馬はすべて1~6枠に入った馬。7、8枠に入った馬の最高着順は5着で、それだけ厳しい戦いを強いられるのだろう。人気を集めるなら飛びことを考慮して馬券を買いたい。		
	11	マーチャンスルー	×2	相手なりに走りそうだが、やはり8枠11番がマイナス。腹を括って後ろから運び、前が勝手に潰れるのを待つ立場になる。ズブズブの決着になれば、3着くらいなら可能性はあるか。		